



5万分の1地質図幅の新刊

帯 広
OBIHIRO

5万分の1地質図幅
地域地質研究報告

著 者 松沢 逸巳 (北星学園女子短期大学)
松井 愈 (北海道大学)
近堂 祐弘 (帯広畜産大学)
瀬川 秀良 (北海道教育大学)
田中 実 (古舞小学校)
小久保公司 (当別高等学校)
発 行 工業技術院 地質調査所
取 扱 先 東京地学協会 (03)261-0809 262-1401

この図幅は 著者らも参加して行われた十勝団体研究会の 約20年にわたる調査研究の成果を土台として公表されるものであり 昭和54年に出版された南隣「大正」図幅に引き続くものである。 本地域の調査は北海道開発庁の委嘱によって行われた。

帯広は十勝平野の中央に位置し “火山灰地” として知られる広大な地域の中心であり 開拓の歴史をもつ地域である。 開けた平地は 今では近代農法

をとり入れた農業が発達し 農作物の集散地となった本地域は 徐々に工業地域に変化しようとしている。 このため 表層を主とした地質調査では北海道においてもっとも早く 昭和初期に行われたところであるが 最近の第四紀学の発展に沿ってより精密に また地下地質 骨材にまで目が向けられて来ている。

- この地域の大部分を占めるのは 鮮新一下部更新統の十勝累層群を基盤として 中央を西から東へ流れる十勝川に向って 北からと南からゆるく傾斜する平坦な台地で 北は6つ 南は8つの平坦面に区分される。
- 台地を構成する更新世中期以降の堆積物は 十勝平野を埋めつくしたとみられる新旧2回の扇状地堆積物と その間に削剝して平坦面を作った薄い砂礫層 また各平坦面を順次覆っている降下火砕堆積物からなり これらが精密な第四紀学的手法をとり入れた調査法によって明らかにされた次第が正確に表現されている。
- 約14,000年前に西方の恵庭火山から噴出降下した恵庭の降下軽石堆積物は 本地域で多くの内陸古砂丘を作った。 この古砂丘の分布・形状・内部構造が土壤・植生とともにくわしく述べられているのが目新しい。 次にあまり記載されたことのない インボリューション・化石構造土などの周氷河現象が記載されているのは この方面の今後の研究には欠かせない基礎資料となるであろう。
- 最後に多くの試錐とも総合して 十勝構造盆地の構造 盆地の変遷を寒冷気候とからませて述べているのは 単に地質学への寄興のみならず 北海道東部における重要な帯広地方の今後の発展のためにも大きな貢献をするものと考えられる。

地質ニュース	第324号	8月号
	昭和56年8月1日	定価 ¥540 千実費
編集	工業技術院	地質調査所
発行人	林 久	雄
発行所	株式会社 実業公報社	
印刷	東京都千代田区九段南4の2の12	
	Tel. (03) 265-0951 (代表)	
	振替口座東京	32466
総発売元	大蔵省印刷局	政府刊行物仕入部
	東京都港区赤坂葵町2	
	Tel. (03) 582-4866	